

道徳科 授業実践報告

教材名 ドッジボール大会

令和6年1月24日（水）第5校時
授業実践 第3学年1組

《本時のねらい》

- ・ドッジボール大会で優勝したいために偏った見方や考え方をしていた主人公の心の変容を話し合うことを通して、誰に対しても分け隔てをしないで、公正、公平にふるまおうとする心情を育む。

深い学びポイント

1 つかむ	2 見通す	3 自力	④ 協働	5 練り上げ	6 メタ認知
-------	-------	------	------	--------	--------

《授業展開の工夫》

「女子は、弱い」と決めつけ、不公平な態度をとっていた主人公の思いを自我関与しながら考える。「ぼくがまちがっていた。」と、気付いた心の変容を多面的・多角的に表現したり、伝え合ったりすると

《児童の変容》

価値理解を基に今までの自分を振り返り、よりよい自己の生き方について考えを深める姿がみられ、「深い学び」が実現されるであろう。

深い学びに到達させる手立て1

体験的に考えることができるようにするための動作化や役割演技等。

取った！
しゅうへい
あとは
お願いね!!

すごいな
女子もボ
ールをと
れるん
だ。

ありががキャッチした時にひと言。
ありがからパスをもらってひと言。
それぞれお話ししてください。

女子は
弱くな
った

ようし、
ここ
から
逆点だ。

どうして
決めつけ
るの

ごめん

すぐに当
たるイ
メージ
だった
から。

イメージ
だから
って決
めつけ
るのは
よく
ないよ。

本当にご
めんね

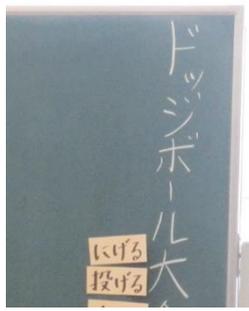
ありがとう。
これか
らも一
緒に
がんば
ろうね。

うん！

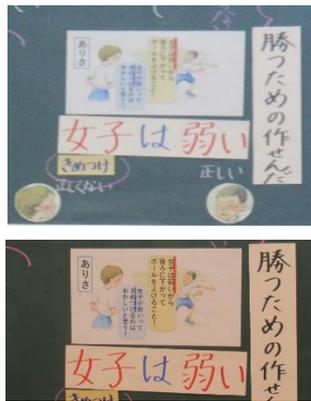
決めつけが間違いだったと気付く瞬間の教師と児童の動作化では、それぞれが言葉に出して、考えることができた。試合後の場面の役割演技では、互いの思いを伝え合い、わだかまりが解けた瞬間を言葉と表情絵の変更（怒り、反省→笑顔）で表した。演者だけでなく観客も納得していた。

深い学びに到達させる手立て 2

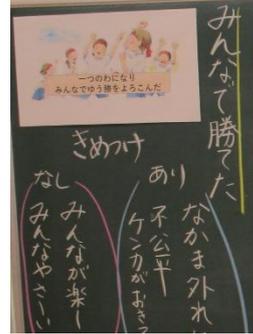
価値の自覚を深めるための様々な手立て



導入では、ドッジボールで何をしているのが楽しいのかを想起させ、展開で主人公の作戦では、女子は「よける」しかできないという不公平を感じ取らせた。



「女子は弱い」という考えに対するしゅうへいとありさの思いを対比して示す。試合後の考えの変化を示し、決めつけがなくなったよさを感じ取らせた。



不公平な態度が周囲に与える影響、そのことが人間関係や集団生活に支障を来たすことを感じ取らせるために、3月の様子を比較して考えた。



導入で、大人、子ども、男の子、女の子に対するイメージを出し合った。展開後段で再度提示し、自分の中にも決めつけの種があるのかもしれないと自己に繋げて考えさせ、振り返りに活用した。

深い学びに到達した姿

ワークシートから

- C：これまでは、「男はイメージこれ」と、決めつけていました。けど、この学習をして、決めつけはこうかいして自分に返ってくるんだと思いました。これからは、決めつけず、公平になるようにいじめをなくしたり、決めつけなどを注意して生活しようと思います。
- C：決めつけが多くなるとけんかが増えたりすることをこの授業でわかったから、決めつけはもうしないようにしたいです。
- C：これまでは、自分でわかるほど決めつけをやっちゃってました。この学習をして、決めつけると後で自分が「何やってたんだろう」と、思ってしまうことを知って、これからは決めつけをやめたいと思いました。理由は、あとの自分の気持ちを考えると、もしかすると自分がこうかいのようなものをするからです。
- C：これまでは、実さいはどうかかわからないけど、イメージで決めつけていた。しゅうへいに似たところがありました。この学習をして、イメージでそれが正しいのかどうかかわからないのに、勝手に決めつけないで、みんなと公平に遊びたいと思います。よく考えてみれば、わたしもいろいろな決めつけをしているような気がします。決めつけるのは、いじめに近いことだと思います。

高学年のねらいである「身近な差別や偏見に向き合い、公平で公正な態度で行動していこう」とする記述がみられた。

指導講評

さいたま市教育委員会指導1課 主席指導主事 宍戸 貴久 先生

- 「**主体的な学び**」導入で「みんなで話し合ってみたいところはある？」と、問いかけていた。自分たちが出した意見で、授業がつくられているという意識をもたせることは、大切。
- 「**対話的な学び**」先生と子供との対話、子どもと子どもの対話がたくさんあった。友達の考えに対する反応が多かった。考えさせたい道徳的価値から離れてしまいそうな発言にも適切に対応していて、よかった。
- 「**深い学び**」深い学びに到達した児童像をしっかり定めていた。「同じ考えの人はいる？」「違う考えの人はいる？」「もう一言付け足すと？」と、多くの意見が出たら繋げていた。広がりや深まりがあった。
- 「**自己の生き方について考えを深める**」導入をうまく生かしていた。だからこそ振り返りでいい意見があった。

課題
成果と

○今後も学習指導要領、児童の実態、教材の特性をもとにねらいを設定して、児童の道徳性を今より一歩でも高めるように着実な実践を重ねていきたい。